

釜援隊の今

釜援隊の活動目的は、まちづくりに関わる人を一人でも多く増やすこと。総務省の復興支援員制度は2020年に終了します。それ以降、釜援隊の活動を地域の皆さんに引き継ぐために、これまでの活動成果を「見える化」し、関係者と議論を始めています。

協働プロジェクトの一例

① 東部地区の事業者連携支援

【担当】 二宮雄岳隊員、花坂康志隊員

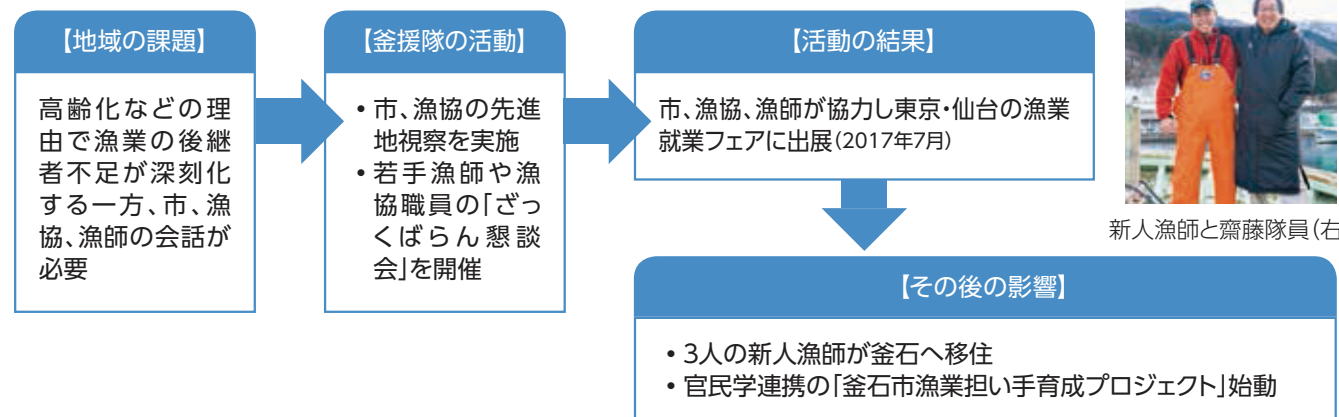
協働先：釜石市東部地区事業者協議会



② 漁業の担い手育成・定着支援

【担当】 齋藤孝信隊員

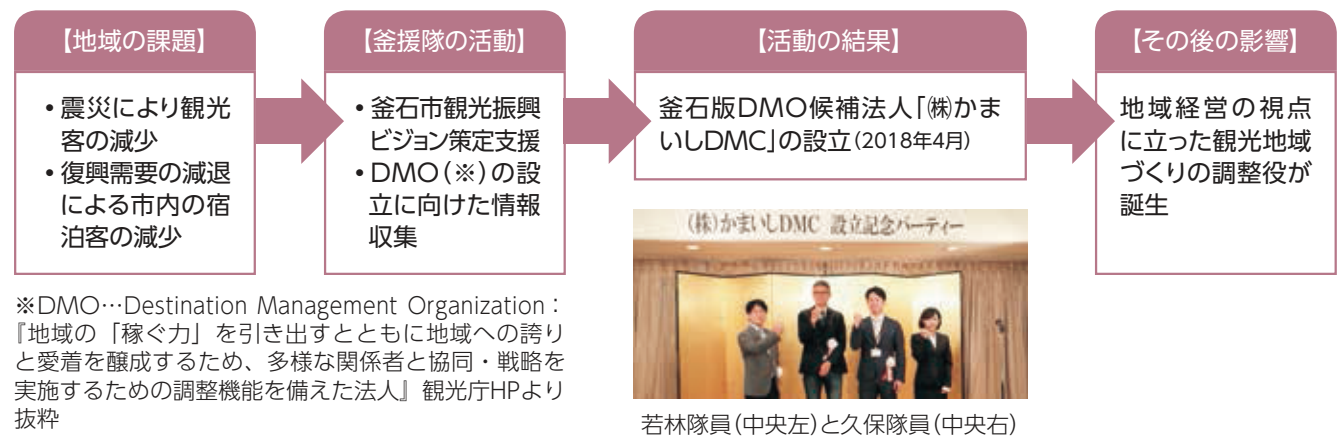
協働先：岩手大学釜石サテライト



③ 観光地域づくり推進組織の設立支援

【担当】 久保竜太隊員、若林正義隊員

協働先：市商業観光課(2018年3月まで)／(株)かまいしDMC(2018年4月以降)



市オープンシティ推進室 戦略推進係 ☎27-8463
釜石リージョナルコーディネーター協議会(釜援隊) ☎22-8600
釜援隊ホームページ <http://kamaentai.org/>
釜援隊YouTubeチャンネル <https://www.youtube.com/user/Kamaentai>

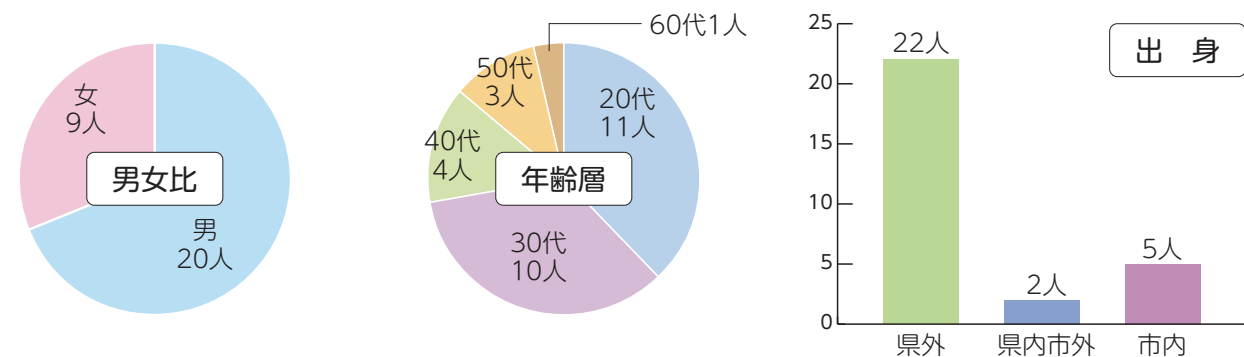


釜援隊の今とこれから

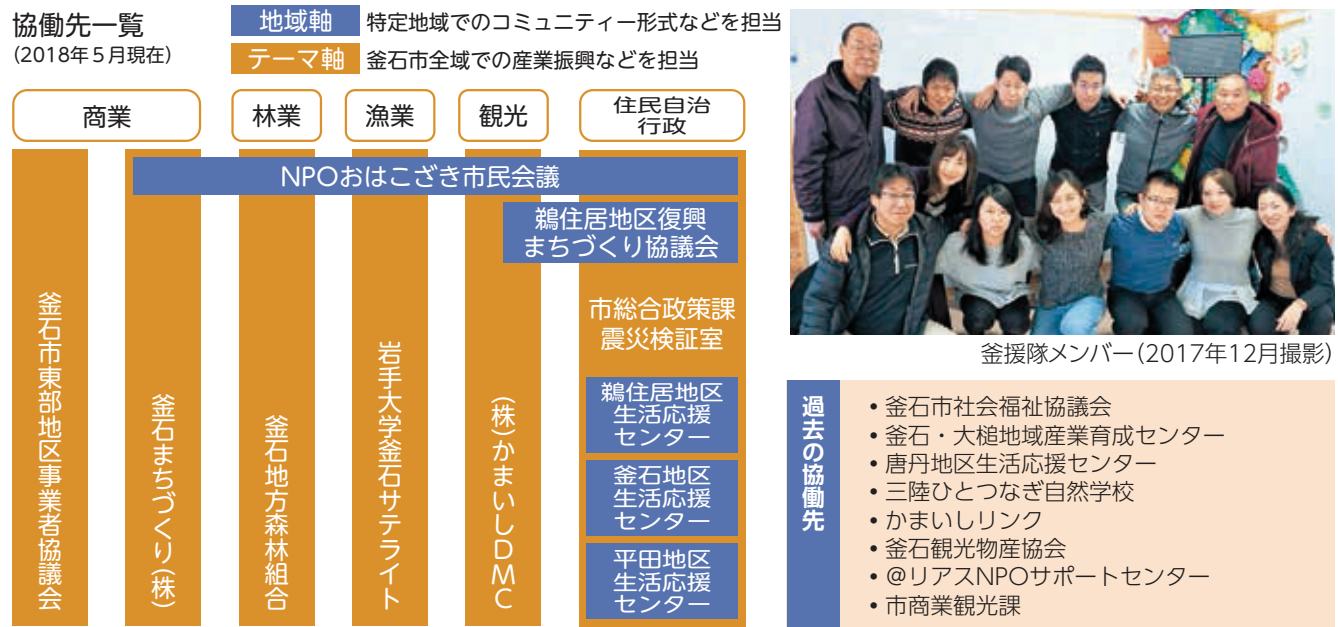
2013年4月に発足した釜援隊。これまで活動してきた隊員は延べ29人(うち13人卒業)に上ります。今年の5月に新たに3人の隊員を迎え、鶴住居地区のコミュニティ形成、防災市民憲章の制定などの分野で新たな協働も始まりました。

2019年のラグビーワールドカップ、そして2020年の復興・創生期間終了に向け、釜援隊は釜石のためにがんばる人や団体を引き続き応援していきます。

釜援隊プロフィールデータ「釜援隊ってこんな人たち!」



協働先「こんなところにも釜援隊!」



5月から新メンバーが加わりました。

新隊員紹介

今年3月に大学を卒業しました。大学在学中にボランティアとして何度も釜石に足を運び、釜石高校の生徒と防災講座などを一緒に企画しました。協働先では、住民主体の新しいコミュニティづくりなどのお手伝いをします。おしゃべりが好きなので、見掛けたらどうぞ声をかけてください。

藤沢 康雄
出身：埼玉県
協働先：市総合政策課 震災検証室

由木 加奈子
出身：埼玉県
協働先：釜石地区生活応援センター

これまで、奈良県や秋田県大仙市で市街地再開発事業の商業振興施策などに携わってきました。協働先では、主に鶴住居地区にできる震災メモリアルパークの整備や防災プログラムの作成などに取り組みます。釜石には、素晴らしい資源がたくさんあるので、そういったさまざまな人やモノに触れながら見聞をより広げたいと思います。

渡邊 陽
出身：神奈川県
協働先：鶴住居地区生活応援センター

高校は少年工科大学(現在は高等工科大学)に入学し、勉学や部活と共に自衛官として任務遂行に努めました。卒業後は岩手駐屯地に配属となり、被災直後の釜石にも何度か足を運びました。新しいコミュニティづくりや自主防災組織の形成に携わりながら、鶴住居に戻ってくる人が、安心して暮らしていけるように、全力でサポートします。